

平成31年度兵庫県立福崎高等学校 学校経営の重点等

1 学校経営の重点

(1) 校訓

自治 公正 親和

(2) 基本方針

智・徳・体の調和のとれた人格の完成を目指し、国家・社会の形成者としての有為な人材を育成する。

(3) 教育目標

ア 「文武両道」を校是とし、勉学と部活動に積極的に取り組み、心身の鍛練に努める。

イ 自律の精神を養い、志や夢の実現に向かって主体的に行動する「生きる力」を育む。

ウ 自他を尊重敬愛し、協調親和の精神を備えた「こころ豊かな人づくり」を推進する。

(4) 本年度の経営の重点

ア 明るく、楽しく、生き生きとした魅力ある学校づくりを推進する。

(ア) 創立105年の本校の歴史と伝統を学び、愛校心を涵養しふるさと意識の醸成に努める。

(イ) 生徒会活動や部活動を活性化させ、自治意識の涵養を図る。

(ウ) 「いじめ対応マニュアル」、「いじめ防止基本方針」に基づき、日常の指導体制を整備し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。

(エ) ボランティア活動や心の教育・人権教育講演会等を通して、命を大切にすする心や他者を思いやる精神を育み、人権を大切にすする集団づくりを推進する。

イ 確かな学力を身につけさせ、個性の伸長を図る。

(ア) 基礎・基本の定着を図るために、きめ細かな指導を実践し「わかる授業」の推進に努める。

(イ) 生徒の能力・適性にに応じてコースや類型、習熟度別学習を実施し、個性の伸長を図る。

(ウ) 面談を充実させ、進路目標を早期に設定させることで、主体的な学習習慣の定着を図る。

ウ 町内唯一の高校として地域を支え、地域に支えられながら積極的に学校文化の発信に努める。

(ア) 地域の文化を学び、地域との連携・交流を深め、地域に根ざした学校づくりを推進する。

(イ) PTA や同窓会、地域自治体との参画と協働のもと、地域との連携強化に努める。

(ウ) 学校評議員や学校関係者評価を活用し、地域から信頼される開かれた学校づくりを推進する。

エ 教職員としての使命感を持ち、高い専門性と豊かな人間性の修養に努め、協働の精神を養う。

(ア) 生徒による授業評価等を活用し、教える「プロ」として授業の質的向上に努める。

(イ) 教科内で模試の分析や入試問題研究等の機会を持ち、学力定着に向けた検証を図る。

(ウ) 部活動の監督や補習について、教職員相互に理解し合い協働で指導にあたる。

2 教科指導及び生徒指導（特別教育活動を含む。）の重点

(1) 教科指導

ア 教育課程

(ア) 第1学年では、普通科一般・総合科学コースともに基礎学力の充実・定着を図る。

(イ) 第2学年から普通科一般の生徒に対し、生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望等に細かく応じるため、「文系科目に重点を置く類型」「理系科目に重点を置く類型」の2類型を設置する。また、総合科学コースの生徒に対しては、第2学年から「数理科

学系」「看護医療系」を設け、生徒の多様な進路希望に対応する。

(ウ) 学習指導要領を踏まえ、特色ある教育課程を編成し、生徒一人一人の多様な進路希望等に対応する。

イ 学習指導

(ア) 新しい学力観に立って教材を厳選し、各教科の関連等も考慮した指導に取り組み、基礎学力の充実と自ら学ぶ積極的・意欲的な態度を養う。

(イ) 指導の目標・内容を的確に把握して指導計画を立て、学力向上を阻む原因を究明して、その打開策を立てる。

(ウ) 公開授業週間を設け、効果的な授業内容・方法を研究し、指導力の向上に努める。また、「生徒による授業評価」を実施し、授業改善に努める。

(エ) 学習の個別化・効率化を図るため、習熟度別授業、少人数授業を実施し、「確かな学力」を育成する。

(オ) 学校行事等の精選を進め、授業時間の確保を図る。

(カ) 国際化時代に対応できるよう、国際理解教育を推進する。

(2) 生徒支援

本校教育目標の達成を目指し、教職員の一致した方針のもと、有機的で機動的な組織による指導の充実を図る。

ア 特別教育活動

自主的・自律的な生活態度を養うとともに、友情を深め、連帯感を高め、望ましい人間関係の育成、個性的な趣味と豊かな情操の育成、自由時間を合理的に活用する態度の育成に努める。

(ア) ホームルーム活動

高校生活への適応と自己の確立、個性の伸長、進路目標の決定と目標達成のための生活設計を重点に、年間指導計画に従い指導する。

(イ) 生徒会活動

生徒会活動への積極的な参加をすすめ、自主的・自律的な態度の育成とリーダーの養成を図る。

(ウ) 学校行事

行事を各領域にわたって精選し、良き校風づくりの基礎とする。

(エ) 部活動

全員参加を原則とし、自主的精神、友愛・協調の精神を養うとともに専門的知識・技能の向上を図る。

イ 進路支援

生徒一人一人が自己理解を深め、進路意識を高揚させる指導を行う。そのうえで、明確な目標を持ち、その達成に向けて努力する姿勢の育成と進路実現に努める。

(ア) 進路指導体制の構築

進路指導についての教職員の力量を高め、教職員全体が組織的に対応できるようにするとともに、個に応じた進路指導を徹底し、生徒一人一人の進路実現を図る指導を行う。

(イ) 進路情報の適切な提供

生徒一人一人の志望に応じ、適切な情報が提供できるよう資料を収集、精選、整備する。

ウ 生活指導

(ア) 生徒一人一人の人権尊重を基盤にして、全教職員の共通理解と実践により、指導力を高める。

(イ) 基本的な生活習慣の確立を目指す。

a 時間の厳守

b 礼儀作法の徹底（登・下校指導）

- c 服装の整備
 - d 清掃の徹底
 - (ウ) 規則・規律の遵守を徹底する。
 - (エ) 通学時の安全歩行や自転車の安全走行の指導を行うとともに、通学路の点検を行い、交通安全指導の徹底を図る。
 - (オ) 地域及び関係諸機関との連携を密にし、ふるさと貢献活動事業やボランティア活動、PTA 活動等を通じて地域、保護者の理解と協力を求める。
- エ 人権教育の推進
- (ア) 広く人権に係わる問題を理解し、解決するために、教職員の共通理解を深める研修を実施する。
 - (イ) すべての生徒がお互いの個性を認め合い、生き生きと自己実現できる学校の実現を目指す。
 - (ウ) 生徒自らが希望する進路を切り拓く力と住みよい社会の実現に積極的に取り組む姿勢を育成する。
- オ 学校図書室としての教育活動
- (ア) 心豊かな人間形成の一助として啓発活動を活発に行い、生徒の読書意欲を高める。
 - (イ) 自ら学ぶ力を育てる学びの場として、学校図書室を計画的・組織的に活用する。

3 健康管理に関する指導の重点

- (1) 学校保健安全計画を立案し、生徒の健康の保持増進を図るための保健管理体制や、安全な教育環境を確保するための安全管理体制の充実を図る。
- (2) 健康診断・健康相談を通じて、健康に関する課題への適切な対応のための早期発見や早期対応の大切さに気づかせる。
- (3) 「保健だより」の発行や掲示物を通じて、健康に関する情報を生徒や家庭に提供し、家庭との連携を強化し、健康づくりの啓発に努める。
- (4) 校舎内外の清掃・美化に努めるとともに、学校環境衛生検査等を実施して、望ましい学校環境基準を保つために、必要な措置を講ずる。
- (5) 危機管理マニュアルを作成し、危険等発生時に適切に対処するために、実際的な訓練を行う。また、学校医や関係機関等との連携を図り、迅速な連絡、協力体制を構築する。
- (6) メンタルヘルスの課題に適切に対応するため、キャンパスカウンセラーを活用するとともに教職員や保護者に対して研修に努める。

4 本年度研究テーマ

- (1) 特色ある学校づくりに向け、魅力的な教育課程を編成する。
より魅力ある生き生きとした学校づくりのために、コース・類型の特色化を図る。また、生徒一人一人の生きる力を育むため、習熟度別学習の積極的活用と学習指導要領を踏まえた教育課程の編成及び実施についてさらなる研究を推進する。
- (2) 学力向上を目指した魅力づくり
生徒の実態に応じたきめ細かな指導の充実と自主的な学習習慣の確立を図る。
- (3) 教育相談や個別面談を充実させ、生徒の実態を踏まえた命（心）の教育を推進する。
生命の尊厳を基盤とした心の通いあう生徒指導を推進する。また、カウンセリングマインド研修会や命（心）の教育講演会を実施し、生徒の内面に迫る生徒指導の在り方について研修する。
- (4) 特別支援教育への取り組み
喫緊の課題である特別支援教育について、校内体制の整備を図るとともに研修会を実施し理解を深める。
- (5) 開かれた学校づくりの推進と地域との連携の強化

地域社会やPTA、同窓会と情報を共有して連携し、福高文化を発信するとともに、学校行事やボランティア活動等を通じて開かれた学校づくりを推進し、学校評議員との意見交換や交流を通して、特色ある教育活動を推進する。

(6) 学校評価の実施

学校教育活動や学校運営状況の改善に資するため、学校自己評価及び学校関係者評価を実施し、その評価結果の分析を行うとともに、ホームページで公開し、学校運営の改善を図り、今後の本校教育課題への対応や組織の活性化を図る。

5 特色をつくるための事業

(1) 主題

魅力ある学校づくりと校風の発揚

(2) 事業のねらい

ア 「地域社会の力となる」活動を実施して、高校生の地域社会に対する参画意識を高めるとともに、社会性や自主性など豊かな人間性を育む。

イ 生徒が自己の将来のあり方・生き方について考え、目標を持って主体的に進路選択ができるようにするとともに、生徒に夢を実現する力を身につけさせる。

(3) 事業概要

ア ふるさと貢献活動事業

(ア) 地域貢献活動

a 吹奏楽部、ギター・マンドリン部、コーラス部等による福祉施設訪問や地域の文化行事への参加、地域住民との交流を通して地域社会との連携を深める。

b 地域の高齢者とグラウンドゴルフ大会を行い、交流を図る。

c 環境保全

地域美化活動、華道部による駅の生け花展示等を行う。

d 小高連携—「いきいき理科実験・観察教室」

本校生徒が近隣小学校で出前授業を行う。

e 環境教育活動

市川流域での水質、水生生物の調査・研究等を行う。

(イ) 地域に開かれた学校づくり

a オープン・ハイスクール及び総合科学コースの中学生体験学習

本校の特色ある教育内容について、中学生やその保護者への理解を深め、進路選択の一助とする。

b 多様な地域人材による教育講演会

各界で活躍されている人の人生観にふれることにより、人間としての在り方・生き方について考え、こころ豊かにたくましく生きる力を育成する。

イ 高校生就業体験事業

(ア) 職業体験等に関する学習

高校生ふれあい育児体験、職場・看護体験、進路講演会等を通じて、自己実現を図ることを目指した職業観・勤労観を育成する。

(イ) キャリア教育の充実

「卒業生を囲む会」、「職種別生き方座談会」、「大学訪問」等、また、「高校生キャリアノート」を活用し、早期から進路意識の高揚を図る。

ウ インスパイア・ハイスクール事業<理数教育重点指定校>

～世界の理数分野の第一線で活躍する人材を育てる学校を目指す～

(ア) 理数分野への興味・関心を高めるとともに基礎的・基本的知識及び技能の習得を図る。

大学・専門機関の出前講義、社会教育施設・専門機関での体験型学習、大学の授業受講と施設見学等。

(イ) 英語によるコミュニケーション能力及びディベート能力の向上を図る。
国際理解教育講演会、英語コミュニケーション能力向上レッスン、洋書購読・プレゼンテーション等。

(ウ) 地域住民からの本校理解を高める。

小高連携（いきいき理科実験・観察教室）等。総合科学コースの生徒が、自ら作成した教材を活用して近隣の小学生を対象に授業を行い、理科への興味・関心を高める。
ギター・マンドリン部、コーラス部、吹奏楽部、生徒会が地域のイベントや福祉施設のイベントに積極的に参加し、地域に親しまれる学校として頑張っている。

エ ふるさと活性化事業

(ア) 高齢化が進む地元自治体と協働し、「食・健康・福祉」をテーマとする地域住民のふれあいを強めるイベントの開催に向けて提案する。

(イ) もち麦の栽培実験を通して地元の生産組合や自治体と交流する。

栽培方法の工夫や土壌の影響について調査した成果を地域に還元できるようにしたい。